

XXII Olympic Winter Games

冬季オリンピック・ソチ大会

レースを終え、父母らが応援するスタンドへ向かって2度3度とおじぎをする高木菜那 (岡部彰広撮影)

スピードスケート女子1500mで滑走する押切美沙紀=16日、ロシア・ソチ (時事)



高木

心に刺さる

タイム不本意

初の五輪のレースはほろ苦かった。「こんなに人がいるレースはこれまでなかった」。会場の雰囲気にもまれるまま終わってしまった。
整氷後すぐの10組目。ウオーミングアップから気持ちが高ぶっていた。リンクに立つと「やらなくては」と緊張した。そのため、滑りは本来の動きからほど遠かった。300〜700mのラップタイムは、出場者中、下から3番目の30秒15。そこからリズムを立て直すことはできなかった。
「ラスト2周で脚に(疲れが)きた。もっと気持ちを楽にして思い切り滑りたかった」と表情が曇った。「氷に力が伝わっていなかった。順位というよりこのタイム(の悪さ)は相当心に刺さっている」
雪辱の機会は残されている。女子最終種目の団体追い抜きに向け「どう直せるかですね」と話していた。(岡部彰広)

▽女子1500m

①テルモルス (オランダ)	1分53秒51
	=五輪新
②ブスト (オランダ)	1分54秒09
③ファンベーク (オランダ)	1分54秒54
④レーンストラ (オランダ)	1分56秒40
⑤スココワ (ロシア)	1分56秒45
⑥パフレダツルシ (ポーランド)	1分57秒18
⑦リチャードソン (米国)	1分57秒60
⑧ロビシェワ (ロシア)	1分57秒70
⑨押切美沙紀 (富士急一駒大苫小牧高、中札内中出)	2分0秒03
⑩田畑真紀 (ダイチ)	2分0秒64
⑪菊池彩花 (富士急)	2分1秒29
⑫高木菜那 (日本電産サンキョー一帯南商高出)	2分2秒16

目。3種目は、男女を通じて、今大会3種目

スピード

スピードスケートは16日、女子1500mが行われ、押切美沙紀(富士急一駒大苫小牧高、中札内中出)が2分0秒03で日本勢最高の22位だが、田畑真紀(ダイチ)は2分0秒64で25位。菊池彩花(富士急)は31位、高木菜那(日本電産サンキョー一帯南商高出)は32位に終わった。ヨリン・テルモルスが1分53秒51の五輪新記録で金メダル。2位はイ

やることはやったという充実感があった。観客席の父母らに振る右手は軽やか。五輪最初のレースは朗らかな表情で終わった。
女子1500mは、日本スピードスケート陣の中で最も遅い出番。ウオーミングアップ中に強烈な緊張感に襲われたが、観客席から清水宏保さん、岡崎朋美さんの長野五輪同メダリストに「頑張れ」と声援を送られ、楽になったという。あとは自分の滑りをするだけだった。
「私は最初に(飛ばして)いって、どこまで粘れるかという選手」と話すように、短距離選手だった強みを生かし、序盤から積極的なレースをするのが持ち味。終盤の気迫あふれる滑りは、富士急の黒岩彰監督も「きれいではないが、根性が表に出ている」

4年間の思いぶつける

実業団に入ってからオールラウンダーに転向。初年度はシニア層との力の差にがく然とした。
五輪シーズンの今年度は、同期の高木菜那がワールドカップ(W杯)に出場。自らは国内戦の転戦にとどまり、気の落ち込みは大きかった。黒岩監督も自チームの選手について行き海外だ。そんな中「4年間待ち続けたのだから」と五輪への強い執念を持ち続け、代表権をもぎ取った。
まだ五輪は終わっていない。スピードスケート最終種目の団体追い抜きのメンバーだからだ。「3人しか出場できない中」私は4番目。でも貢献できるよう、コンディションはしっかり持っていきたい。最後は持ち前の笑顔からきりりと引き締まった表情に変わった。(岡部彰広)



押切

全力出せた

る」と絶賛するほどだ。最初の300mをトップ選手たちと同じ25秒台で滑ると、同走の中国人選手と競り合いながら周回。2分を切るタイムは出せなかったが「力を全部出せた」と言い切った。
石澤志穂(27)はトランシス一駒大苫小牧高、中札内中出の2の影響でスケートを始め、中学で全国短距離2冠。親元を離れたいた高校では、1学年上の神谷衣理那(毎日元氣一白樺学園高出)を目標にしたり、中村奨太(ロジネットジャパン)ら身近の男子強豪選手の影響を受けて練習に取り組みたりして、急激に力が伸びたのを実感した。「このとき初めて五輪を意識した。(高木)美帆が(バンクーバー五輪に)行ってさらに意識した」